

11/26

Tue

学校型 佐久市立浅間中学校

共同研究者 藤森裕治
(文教大学 教授)

『浅間探究学校』への挑戦 ～3学年「卒業探究」の実践を通して～

【私たちの問い】「何をやらせればよいのか」から伴走者へ

3学年では「卒業探究」と題し、今年度から総合的な学習の時間のカリキュラム開発に挑戦しています。私たちの願いは、生徒一人ひとりが各自の興味関心に基づき、ワクワク感を抱きながら楽しく追究する姿。そんな生徒の姿を願って研究をスタートさせましたが、最初に直面した壁は「問い」の設定でした。探究のプロセスを動かす原動力となるはずの「問い」がなかなか据わりません。「何をしたらよいのか」と戸惑う生徒と「何をさせればよいのか」と悩む私たち。そのような中であっても、ゼロベースからカリキュラム開発に挑む学年職員は肝が据わっていました。「生徒の中に問いが生まれ、据わるまでは慌てない。時間がかかっても追究に値する問いを一緒に考えよう」と伴走者としてのスタンスを守り続けました。

【ある生徒の問い】おいしいコロッケを作るには

「食」に興味をもつT生は、探究すべき問いを探すために行った4月のマインドマップ作りにおいて「自分の好きなもの」として「食べ物」を中心に据えました。「和食」「母親の味」「温かい」…と、どんどんイメージを膨らませていきました。たどり着いた最初の問いは「おいしいコロッケはどうすれば作ることができるか?」でした。不安そうな表情で担当職員にテーマを伝えるT生。そんな生徒の様子を捉え、職員は「せっかく佐久に住んでいるのだから、佐久らしいコロッケにするのはどう?」と声をかけます。不安げな表情が一変し、T生は笑顔で「面白そう」とつぶやきました。そこからT生の探究に火が点きました。夏休み中には、地元商店街はもちろん、佐久地域の惣菜店や軽井沢まで足を運び、食べ歩きを敢行。写真と自分なりの感想を蓄積していきました。温かく美味しいコロッケに出会う中でT生の願いはいつしか「佐久らしいコロッケを開発して、みんなに食べてもらいたい!」に変わっていきました。

【参加者の問い】共に学ぶ アウトプットとフィードバックを

現在、3年生245名がそれぞれの問いをもって自分なりの探究を進めています。教師としてできることは何なのかに悩みながら、生徒の歩みを見守る職員がいます。浅間探究学校への挑戦は始まったばかりですが、参加される先生方と共に学び合いたいと思っています。



共同研究者 藤森先生から

戸惑いと狼狽の中でもがいている浅間中学校。スマートにいこうなんてこれっぽっちも思っていない。そんな浅間中学校の新たな挑戦に胸が躍ります。「問い」の広がり・深まり・高まりといった変遷を生徒の姿からご覧ください。発表する生徒はもちろん参加者も主人公となるような1日を共に作り上げていきましょう!



～日程～

- | | |
|--------|-------------|
| ① 開会式 | 13:25～13:50 |
| ② 公開授業 | 14:00～15:00 |
| ③ 振り返り | 15:10～15:40 |
| ④ 講演会 | 15:40～16:30 |
| ⑤ 閉会式 | 16:30～16:40 |

全県研究大会

私(たち)のあゆみ

研究の進捗状況